

看護学雑誌 第45巻 総目次

1981年1-12月

(表示は、題名：筆者名、号数、ページ数)

特 集

看護婦が患者になってみえたこと

座談会／患者になって何がみえたか：佐藤恵子・広島典子・小川トメヨ、1, 27.

あちら側とこちら側と：庄司かずえ、1, 35.

看護者の物差しだけで判断すまい：芳賀沼俊子、1, 40.

ウイルス肝炎をどう防ぐか

ウイルス肝炎の予防と治療：鈴木宏、1, 45.

透析室におけるウイルス肝炎予防の看護管理：吉岡典、1, 50.

B型肝炎の感染予防と看護管理：秋山美智子、1, 56.

飲酒習慣の害

飲酒習慣に問題のある人へのアプローチ：河崎雪江・大江まさ子・渡辺孝子・武内和子、3, 266.

飲酒習慣と病気：石井裕正・宮本京、3, 272.

アルコール依存：斎藤学・村上雅昭、3, 280.

“食べる行為”への援助

口から食べることの意味は何か：室伏君士・村本和子、4, 386.

生きることは食べることから始まる——‘食べる’ことへのかかわりにより闘病意欲が生じた舌腫瘍患者の看護

過程：加藤緑・高橋郁子・島田紘子・小沼早苗、4, 392.

食べる行為と看護のかかわりを考える——意識障害患者の長期にわたる嚥下困難への援助を通して：皆美妙子、4, 397.

嚥下障害患者の固形物摂取への働きかけ——より人間らしい食生活を願って：武田洋子、4, 402.

喫煙と看護

病態生理から見た喫煙：浅野牧茂、4, 407.

禁煙指導に対する問題提起：河野總子、4, 417.

喫煙行動を取り巻く諸問題：千葉康則、4, 422.

POS導入の経験——滋賀医科大学付属病院の場合

POS導入の経過——これから取り組もうとする人への普及の戦略：細田四郎、5, 506.

POSが私を変えた——そして、良い医師になった!?：中木高夫、5, 511.

POSが私を変えた——記録としてのPOSから看護過程としてのPOSへ：山崎幸子、5, 512.

対談／POSによって看護がどう変わったか：中木高夫・坂井靖子、5, 515.

浣腸療法の指導

事例を通して考える浣腸療法の看護計画：阪本恵子、5,

浣腸療法指導の困難な患者へのアプローチ：新屋福江，
5，532.
種々の問題のある患者への浣腸療法指導：岩間本，5，536.

地域ケアへの出発点を探る

対談／地域保健活動をどう進めるか——コミュニティづ
くりと看護の役割：杉野元子・中島紀恵子，6，626.
地域社会の変化と地域医療の条件——東京都の人口構造
を例として：池上洋通，6，639.

看護情報とコンピュータ

健診時情報収集における問診機の利用について：高井正
子，6，647.
生活指導における問診機の利用について：中川泉，6，
651.
看護情報処理にマイクロ・コンピュータを導入して：坂
根喜代子，6，656.

看護の内なる役割の拡大へ向けて

医師への依存からの脱却を——患者I氏の食事をととし
て考える：松村悠子，7，746.
体験をととして看護婦の役割を考える——信じられる人
となるためには：中村友美，7，752.
主体的な看護実践を求めて：稲田美和，7，758.

‘呆け老人をかかえる家族の会’

座談会／呆けを看つめる日々のなかで——‘呆け老人をか
かえる家族の会’に参加して：高見国生・外村ヒロミ・
三宅貴夫・辻宣子，8，866.
‘呆け老人をかかえる家族の会’の歩み：高見国生・三宅
貴夫・齋藤貴夫，8，878.
〈呆け110番——各地での試み〉
‘アサヒ老人家族相談’：大國美智子，8，884.
呆け110番Q & A：山本孝之，8，887.
呆け110番日記：中島紀恵子，8，891.

透析患者の食事管理指導

長期透析患者の食事管理と指導の実際：東郷登与予，8，
896.
自己管理困難な透析患者への援助：佐藤友美，8，902.
移植腎摘出透析患者の食事・生活管理への援助：小泉洋
子・水附裕子・花島文子・岸喜美子・宇田有希，8，
907.

障害者の参加と平等は可能か

ノーマライゼーションに向けて——あるがままの社会

参加を：阿部志郎，9，986.

障害とともに生きられるように——事例から障害受容へ
の援助を考える：今田恵美子，9，992.
座談会／看護にとって障害者の参加と平等とは：神山五
郎・細井トシ子・中山好枝・佐久間敏子，9，998.

新しいマスク式酸素吸入療法

マスク式酸素吸入療法を看護援助を中心に考える：伊藤
美智子，9，1007.
マスク式酸素吸入療法マニュアル化の試み——その特徴
と看護上の留意点を中心に：渡辺孝子，9，1015.
脳外科における酸素吸入療法の実際：薄井幸枝，9，1020.

よりよい臨死患者のケアのために

延命の医学から生命を与えるケアへ：日野原重明，10，
1106.
ホスピスのケア：柏木哲夫，10，1114.
末期がん患者のニードとホスピスの役割：ピーター＝グ
リフィス，季羽俊文子訳，10，1119.

末期患者のケア

ターミナル・ケアにおける看護の役割——急性白血病患
者へのチームアプローチから：佐藤真理，10，1130.
筋萎縮性側索硬化症末期患者の看護：岡元玲子・島田松
江，10，1136.
〈死の部屋〉から〈安らぎの部屋〉へ——個室移動を拒否し
た末期患者から考える：倉田トシ子，10，1139.

患者にとって‘開放化’とは何か——精神科病棟開放化 の意味と課題

上山病院における開放化運動の軌跡——地域住民とのか
かわりを中心に：今野幸生，11，1226.
‘開放化’とは患者にとって何を意味するのか：矢野真
11，1232.
開放のもとでの精神病院医療——三枚橋病院の場合：石
川信義，11，1237.

ブラシーボ効果

ブラシーボの意義：橘直矢，11，1244.
ブラシーボの使用を試みて：向田良子・島田利恵，11，
1252.
ブラシーボの効果について：鈴木洋子・狩俣恵美子・佐
藤朱美・平子和子，11，1256.

クリティカル・ケア

クリティカル・ケアとは何か——そのあり方と実践的指
針(原則)：畑山善行，12，1354.

ICUノイローゼとそのケアについて：清水洋一，12，1362.

クリティカル・ケアにおける倫理的問題：福岡誠之，12，1368.

POST-OPERATIVE CARE UNITにおける看護：土田慶子・中井英子，12，1375.

ICUにおけるプライマリ・ナーシングの実際：伊藤加津子・田中澄江・加藤ちさと，12，1381.

ICUにおけるケアの個別性について——ICU看護の盲点を探る：村松静子，12，1387.

特別論稿

対談／“習慣病”の提唱をめぐる——ライフ・プランニングにおける看護の役割：日野原重明・中島紀恵子，2，145.

● 院中の子どもの生活と看護——第29回医学書院看護学セミナー講演より：吉武香代子，2，157.

救命の看護過程——安全性の哲学をふまえて——第35回医学書院看護学セミナー講演より：川島みどり，3，286.

インタビュー／この道はいつか来る道——京都・堀川病院の“生活医療”：早川一光，7，764.

ベッドサイドの看護

事例を通して‘個室への移動’を考える——患者管理と死を見つめる心の動き：坂梨秀子，1，61.

人工股関節置換術施行患者のリハビリテーション看護：山名泰子・田村悦子・中島恵子・斎藤トミヨ，1，66.

重篤な呼吸困難を呈した筋萎縮性側索硬化症患者の看護：有村喜代子，1，72.

● 末期肺癌患者への援助——ブロンプトン液服用により癌生疼痛から逃れられた事例：御手洗好子・濱田了・甲斐隆義・大塚ツギ子，2，166.

病名を知った末期胃癌患者への援助：築山千代美，2，172.

白血病患児の安らかな死への援助：宮路祥子，2，178.

家庭訪問を取り入れた透析患者指導の再点検：伊藤ツヤ子，2，184.

脊椎損傷による巨大褥創患者の看護：池田秀子，3，298.
アテトーゼのある患者の食事援助を中心とした看護：遠藤文子・岩船貞子・野崎マサ子・五日市よう・葛西和子，3，302.

筋萎縮性側索硬化症患者への援助——訴えの多い患者とのコミュニケーション：東久美子・金子公子，3，306.
安楽死を望み続けた患者への訪問看護：佐々木ふき子，5，541.

重症口蓋裂患者の経口哺乳および心身発達への援助：富沢亥子，5，546.

股関節全置換術後患者の安楽の工夫：網谷実千枝，5，550.

堀川病院北分院における終末期看護検討集会の活動から：経隆洋子・森山八重子，6，666.

腰椎カリエス疾患児への援助——悪化・再発の不安が強い患児の情緒面への働きかけ：小林邦枝・博田章代・坂本由美子・長尾京子・船橋真喜枝・米沢シヅカ，7，774.
腎不全という先入観をもった患者への援助：豊田梅代・大益アヤ・東海林美代恵・佐藤幸・井上昭子，7，780.
手関節切断幼児のADL拡大への援助：品川光枝，7，784.
遺棄症のT君に対する援助と家族背景：石坂集子，7，788.
医療不信が強い心因性痙攣発作患者の看護：小原孝子・渡辺奈穂美，8，912.

重積発作を起こした喘息患者のICUでの看護：片岡和枝，9，1024.

ニードを発作様行動で示す患者への援助：向井広子，10，1146.

病棟中が翻弄された躁うつ病患者への看護——振り返りの大切さを教えられたA氏の事例から：佐藤久恵，11，1261.

家庭内暴力を繰り返す思春期女性の看護——日常生活に適應するための援助を中心に：塩入美智子・山崎成美・矢口保子・小平恵子・戸沢誠子，11，1266.

かかわりの難しい手首自傷を繰り返す患者への援助：岩下治美・上釜ミヨ子，11，1271.

慢性の神経疾患をもつ老人患者のADL拡大への援助：渡辺加寿代，12，1392.

情緒不安定状態を繰り返す脊髄小脳変性症患者の看護：御嶽延代・谷口恭子，12，1396.

転移癌による症状精神病患者の看護：桜井一子・林厚子・織田真紀子，12，1399.

学生之眼

初めての基礎実習で学んだこと——重症患者の観察とケアを通して：箭内順子，2，189.

看護学生と付き添いととのラポールを考える——大腿骨骨頭壊死患者の術後看護をとおして：高桑久恵，3，312.

医学生と看護学生の喫煙に対する認識調査——禁煙指導をする者としての姿勢を考える：五十嵐裕子，4，430.

最後まで自分の価値観を守り通した患者から学んだこと：石黒典子，5，554.

胃癌末期患者の看護——死の受容へのプロセスを追って：山村和子，6，673.

末期患者の看護をとおして学んだ清拭の意義：佐々木雅子，7，794.

心の痛みは踊って忘れることができるか——Dance away the heartache? :Cathy Campbell, 訳/本誌編集室, 7, 797.

事例研究/‘死を目前にした人に導かれて’を読んで:岡田綾子, 8, 915.

事例研究を読んで:藤田郁子, 8, 918.

学生を拒否する患者へのアプローチ——看護技術を媒介として:飯田裕子, 9, 1029.

失語症患者の言語獲得へのアプローチ——看護婦の役割を考える:柴山美智子, 10, 1152.

訴えを‘聞く’ことの意味——癌末期の老人患者の看護を通して:小林栄津子, 11, 1275.

患者理解についての学び:菅谷利枝, 12, 1402.

外来ナーシングカンファレンス

——ライフプランニングセンター・クリニックにて:

日野原重明・九岡久美子・吉見久子・

松島たつ子・三角政子

患者への薬の服用を看護婦はどう指導すべきか——服薬の仕方を間違えた特発性心筋症の患者をめぐる, 1, 77.

患者の服薬や運動その他の生活指導上の問題, 2, 196.

頻尿を訴える神経質な老人のケア, 3, 317.

薬の副作用に対する患者の戸惑い——看護婦としての患者への対応の仕方, 4, 436.

コミュニティー・ケア

——英国の訪問看護の実態:岡本祐三・高山佳洋

国民保健サービスと訪問看護, 9, 1036.

訪問看護制度はどのようにして確立されたか, 10, 1155.

ヘルスセンターと家庭看護婦の活動, 11, 1279.

‘古い’と‘死’を医療と福祉で受けとめるホームケア, 12, 1406.

コンピュータを学ぶ人のために:

和田孝雄・近藤和子・佐藤里子

コンピュータとは何者か, 1, 89.

コンピュータとのコミュニケーション, 2, 209.

エレクトロニクスの進歩とその意味, 3, 329.

ハードウェアとソフトウェア, 4, 449.

コンピュータの原理を探る, 5, 569.

ポケット・コンピュータとの出会い[1]——フロー・チャートの作成, 6, 689.

ポケット・コンピュータとの出会い[2]——フォートラン言語に直す, 7, 809.

プログラミングの練習問題, 8, 929.

腎センターの管理システム[1], 9, 1049.

腎センターの管理システム[2], 10, 1169.

2進法はなぜ必要か, 11, 1289.

マイコンと機械語, 12, 1417.

性の臨床:河野友信

性と犯罪, 1, 93.

性教育, 2, 213.

障害者と性, 3, 333.

思春期の性, 4, 453.

老人の性, 5, 573.

同性愛, 6, 693.

性病, 7, 813.

喫煙の生理・衛生学:浅野牧茂

喫煙とせき, 痰, 8, 933.

喫煙と呼吸機能, 9, 1053.

喫煙と呼吸器疾患——特に慢性閉塞性肺疾患との関係, 10, 1173.

喫煙と肺癌, 11, 1293.

喫煙と循環機能, 12, 1421.

呼吸器病Q & A:岡安大仁・福田幸子

肺サルコイドーシス, 1, 97.

縦隔腫瘍, 2, 217.

肺機能検査, 3, 337.

肝臓病・胆のう病・膵臓病Q & A:関孝一・松本和子

ウイルス肝炎, 4, 457.

B型肝炎ウイルスの感染予防対策, 5, 577.

慢性肝炎, 6, 697.

アルコール性肝障害, 7, 817.

薬物性肝障害, 8, 937.

肝硬変症, 9, 1057.

肝癌, 10, 1177.

胆石症, 11, 1297.

胆道癌, 12, 1425.

滅菌と消毒:林和枝

中央滅菌材料室, 1, 101.

手術室と消毒・滅菌, 2, 221.

病棟での消毒・滅菌[1], 3, 341.

病棟での消毒・滅菌[2], 4, 461.

消毒・滅菌——その目指すもの, 5, 581.

看護に生かす交流分析:白井幸子

交流分析理論の誕生, 6, 701.

自我状態の分析とエゴグラム, 7, 821.

自我状態に関する様々な問題, 8, 941.

やりとりの分析[1], 9, 1061.

やりとりの分析[2], 10, 1181.

ストロークへの欲求[1], 11, 1301.

ストロークへの欲求[2], 12, 1429.

バイタルサイン

呼吸[4]——喘鳴：岡安大仁, 1, 4.

呼吸[5]——異常呼吸：岡安大仁, 2, 124.

体温[1]——体温と検温：岡安大仁, 3, 244.

体温[2]——体温調節：岡安大仁, 4, 364.

体温[3]——発熱・1：岡安大仁, 5, 484.

体温[4]——発熱・2：岡安大仁, 6, 604.

血圧[1]——血圧の動揺性：道場信孝, 7, 724.

血圧[2]——血圧の測定方法：道場信孝, 8, 844.

血圧[3]——コロトコフ音：道場信孝, 9, 964.

血圧[4]——血圧計：道場信孝, 10, 1084.

血圧[5]——体位と血圧：道場信孝, 11, 1204.

血圧[6]——労作と血圧：道場信孝, 12, 1324.

カラーアトラス褥創

多発性化膿性褥創：木村哲彦, 1, 6.

坐骨結節部の褥創—1：木村哲彦, 2, 126.

坐骨結節部の褥創—2：木村哲彦, 3, 246.

坐骨部褥創に併発した仙骨部褥創：木村哲彦, 4, 366.

脊髄損傷急性期に生じた仙骨部褥創：木村哲彦, 5, 486.

大転子部の褥創：木村哲彦, 6, 606.

殿裂部の褥創[1]：大谷清, 7, 726.

殿裂部の褥創[2]：大谷清, 8, 846.

殿裂部の褥創[3]：大谷清, 9, 966.

肛門周辺部の褥創：大谷清, 10, 1086.

仙骨部の褥創[1]：大谷清, 11, 1206.

尾骨部の褥創[2]：大谷清, 12, 1326.

くりにかるふぁーまころじー：佐久間昭

臨床薬理学とは, 1, 23.

ポスト・ホック論法, 2, 143.

アスコルビン酸, 3, 263.

前値と後値, 4, 383.

統計的推論, 5, 503.

接ぎ目の薬理学, 6, 623.

伝達物質, 7, 744.

抗アドレナリン剤, 8, 863.

筋収縮, 9, 983.

アスピリン, 10, 1103.

ブラシーボ, 11, 1223.

服薬順守, 12, 1351.

看護ミニ事典

マルチ・ホスピタル・システム：紀伊國献三, B型肝炎：

志方俊夫, 1, 21.

レーザーメス：正津晃, 音楽療法：田中多聞, 2, 141.

心電図, 心音図：森杉昌彦, 3, 261.

脳波：大友英一, 関節鏡：渡辺正毅, 4, 381.

人工心臓：渥美和彦, ショック：岡田和夫, 5, 501.

生検, 細胞診：金子仁, 6, 621.

セックス・セラピスト：奈良林祥, プロスタグランディン：仲野良介, 7, 741.

人工血管, 血管移植：三島好雄, 8, 861.

クリティカル・ケア, ターミナル・ケア：福岡誠之, 9, 981.

遺伝子工学, クローン動物：長野敬, 10, 1101.

リハビリテーション, IL 運動：砂原茂一, 11, 1221.

liaison psychiatry：清水洋一, 消化器内視鏡技師：小黒八七郎, 12, 1349.

いのちの現場で

——したたかに生きる看護婦を追って：長岡房枝

家族の入院, 1, 85.

養護老人ホームの看護婦[1], 2, 205.

養護老人ホームの看護婦[2], 3, 325.

法務教官という名の看護婦, 4, 445.

准看からの脱出, 5, 565.

孤独な闘い, 6, 685.

見えない仕事, 7, 805.

愛と看護の処方箋, 8, 925.

2000 円の重み, 9, 1045.

生きている証拠, 10, 1165.

カステラとボーナス, 11, 1285.

極限を歩く, 12, 1413.

学童内科の子どもたち：石田ヒサ子

さようなら, ありがとう朋ちゃん, 5, 561.

ちょっぴりエッチなくみちゃん, 6, 681.

うんちと闘うマーちゃん, 7, 801.

赤ちゃんはどうやってママのおなかに入るんだよ?, 8, 921.

必死で治療に耐える子どもたち, 9, 1041.

メリー・クリスマス, 10, 1161.

マイ・オピニオン

中堅看護婦の一本化を：足立アイ子, 1, 9.

‘准看生徒の実習拒否’を問う：大原アイ子, 2, 129.

‘配膳’からの脱却を：中村友美, 3, 249.

看護と OT の接点：磯崎彩美, 4, 369.

糖尿病患者の指導について思うこと：岡田澄子, 5, 489.

精神科閉鎖病棟の中で：大淵誠一，6，609.
再び臨床にもどって：白松万里子，7，729.
退院時指導を考える：藤野邦夫，8，849.
主体的な学びを支える場づくりを：大田すみ子，9，969.
障害者と医療——〈かやの木〉の取り組みに思う：鈴木仁史，10，1089.
精神障害者の社会復帰に思う：岩崎七四六，11，1209.
障害児の早期発見・早期療育の実現へ：武藤喜子，12，1337.

ナースとほん

看護計画の系統的アプローチ(第2版) (Marlene G. mayers 著，松本登美訳)：溝口満子，1，110.
臨死患者ケアの理論と実際——死にゆく患者の看護(柏木哲夫著)：石原美恵子，1，111.
看護の歴史(ルーシー＝リジリー＝セーマー著，小玉香津子訳)：星野ひで，1，112.
からだの学校(ロナルド・J・グレイサー著，小原侃訳)：近森芙美子，2，230.
バイタルサイン——そのとらえ方とケアへの生かし方(日野原重明ほか著)：富永恵子，2，231.
ネエネエかんごふさん——小児外科看護7年の実践(舟島なをみ著)：島田香代子，3，350.
三橋節子画集(梅原猛責任編集)，湖の伝説——画家・三橋節子の愛と死(梅原猛著)：望月栄子，3，351.
失われた世界——脳損傷者の手記(A.R.ルリヤ著，杉下守弘・堀口健治訳)：山鳥重，4，470.
POSによる高血圧のマネジメント——プライマリ・ケアへの新しいアプローチ(道場信孝・日野原重明著)：岩城裕美子，4，471.
死の受容——ガンと向きあった365日(吉岡昭正著)：日野原重明，4，472.
患者自立への援助(都留伸子ほか編)：川島みどり，5，590.
子どもの自由な7日間——ひらめ合宿の治療教育(平井信義著)：西元勝子，5，591.
解放運動の軌跡(今野幸生著)：渭原武司，5，592.
新臨床医学入門(A.C.Kennedy and L.H.Blumgart 著，高久史磨・菅井亮生共訳)：日野原重明，5，593.
小児看護技術(Gloria Leifer 著，渡辺言夫ほか訳)：吉武香代子，6，710.
職業としての准看護婦(鈴木俊作著)：川島みどり，6，711.
白き流れはたえもせず——看護婦のたたかひの歴史(植月秀子著)：朝倉明子，6，712.
プログラム学習 看護技術の基礎(Maja C. Anderson 著，荒井蝶子ほか訳)：仲田妙子，6，713.
心電図を学ぶ人のために 第2版(高階経和著)：林育子，

7，830.
地域看護の展望——柳原病院における在宅老人看護の実践(川島みどりほか著)：中島紀恵子，7，831.
生の選択——水平の世界・垂直の世界(日野原重明著)：藤田郁子，7，832.
小児病棟(江川晴著)：笠原浩子，8，950.
もはや悲しみも痛みもなく(J・ハガイ著，山本俊一・あや子訳)：平田文子，8，951.
図解生理学(中野昭一編集)：大室律子，8，952.
リハビリテーション(砂原茂一著)：佐久間敏子，9，1070.
POSの基礎と実践——看護記録の刷新をめざして(日野原重明ほか著)：斎田トキ子，9，1071.
生と死の弁証法 叢書文化の現在・6(安野光雅ほか著)：木下由美子，9，1072.
ナースに必要な診断の知識と技術 第2版(日野原重明ほか著)：坂井靖子，10，1190.
マンウォッチング——人間の行動学(デズモンド・モリス著，藤田統訳)：河野友信，10，1191.
生と死をみつめる看護——末期患者の看護にとりくむ(中川俊二・寺本松野・大段智亮著)：梅田嘉子，10，1192.
輸液を学ぶ人のために(和田孝雄・近藤和子・梶原めぐみ著)：大西マリコ，11，1310.
看護の社会学(米山桂三著)：木下安子，11，1311.
胃を切った人の養生学——胃を切る人・切った人のために(熊谷洋監修，梅田幸雄編集)：多賀須幸男，11，1312.
健やかに老いる(大森医師会編)：神谷和子，11，1313.
ナース——がん病棟の記録から(ペギー・アンダーソン著，中島みち訳)：横田喜久恵，12，1438.
精神科看護と福祉——地域活動の実践(加藤政子・松元信子著)：臺弘，12，1439.
看護英会話入門(樋口康子監修，植木武，ドレール・トウン著)：伊津フサ子，12，1440.

ニュース

第11回日本看護学会地域看護分科会／第35回医学書院看護学セミナー，1，114.
第12回北陸地区看護研究学会／第35回国立病院療養所総合医学会／第13回東北地区看護研究学会，1，115.
第19回全国自治体病院学会／東京看護学セミナー第16回公開セミナー／第39回日本公衆衛生学会，2，234.
第12回中国地区看護研究学会／第4回全国ホームケア研究会／第36回医学書院看護学セミナー，2，235.
第11回日本看護学会看護管理分科会／第37回医学書院看護学セミナー／第11回日本看護学会母性看護分科会，3，354.
第12回近畿地区看護研究学会／講演会‘よりよい臨死患者のケアのために’／第4回死の臨床研究会，3，355.

第3回東京・呆け老人をかかえる家族の会／第198回実地
医家のための会, 4, 474.
第13回自治体に働く保健婦のつどい／第11回日本看護
学会看護総合分科会, 4, 475.
看護職の労働実態調査まとまる——日看協‘昭和54年病
院における看護職の労働実態調査’を発表, 5, 553.
‘呆け老人をかかえる家族の会’全国総会／第8回日本集
中治療医学会総会／‘安楽死法制化を阻止する会’機関
誌3号でできる, 5, 594.
第12回東京民医連看護活動研究集会／口で描いた‘花の
詩画展’開かる, 7, 792.
昭和56年度日本看護協会通常総会, 8, 954.
第3回東京ホームケア研究会・公開研究会／第38回医学
書院看護学セミナー, 8, 955.
第5回老人福祉問題全回研究集会／人間と看護を考える
会第3回合同研修会, 9, 1074.
28回‘ナイチンゲール記章’授与式——松守敏・梅本勝
子・津末ミスエの3氏が受章, 10, 1194.
第12回日本看護学会看護教育分科会／第39回医学書院
看護学セミナー／‘付き添い看護’の実態明らかに——
日看協の調査結果まとまる, 10, 1195.
日本看護科学学会がスタート／全国看護教育研究会創立
30周年記念式典／第12回日本看護学会成人看護分科
会, 11, 1314.
第12回日本看護学会成人看護分科会(広島, 長崎)／第
40回医学書院看護学セミナー, 12, 1442.
第3回難病看護研究会／第7回日本病院学会／第7回医
療と教育に関する国際セミナー, 12, 1443.

ビバ! ラブラタ

——アルゼンチンの日系人とともに：藤原美幸

アルゼンチンへの旅立ち, 1, 106.
アルゼンチンの医療, 2, 226.
さまざまな日系人との出会い, 3, 346.
日系人の夢<日本病院>, 4, 466.
初めての手術介助と分娩介助, 5, 586.
様々な人たちとの出会いと別れ, 6, 706.
アルゼンチンでの日々の暮らし, 7, 826.
健診センターでの日々, 8, 946.
移住地での集団健診, 9, 1066.
僻地の移住者たち, 10, 1186.
健診センターを辞めてから, 11, 1306.
アルゼンチンでの生活を終えて, 12, 1434.

余白のつぶやき：べっしょちえこ

言恋病, 1, 109.
戦中派の喧嘩, 2, 229.

ももえももえ, 3, 349.
泣けとごとくに, 4, 469.
江青は下品ですか, 5, 589.
モーロー主義, 6, 709.
エスパー・カジンスキー, 7, 829.
辛抱の腹オビ, 8, 949.
もう, いえーがー, 9, 1069.
湯布院にて, 10, 1189.
イヤなはなし, 11, 1309.
そろそろこのへんで, 12, 1437.

プロフィール

<木村美智>看護中心のリハ病院初代看護部長——やれば
やるほどリハ看護の難しさがわかります, 1, 105.
<今田恵美子>頸髄損傷者連絡会ボランティア会員——患
者さんの外出の手伝いでもできればと思って, 2, 225.
<斎藤洋子>バングラデシュで母子保健指導に従事——日
本の医療はあまりにも分業しすぎていますね, 3, 345.
<鬼塚久子>‘ひょうごナーシングLAB’書記——研修会で
はつい話し込んで徹夜になってしまいます, 4, 465.
<ジワン=カラ=ライ>ICU看護を学ぶネパールの看護婦——
チームナーシングを学べたことが一番の収穫, 5, 585.
<檜原ますみ>離島の保健婦として30年——“保健婦”を超
えたかかわりが大切なんです, 6, 705.
<藤田文子>“大阪地域精神医療を考える会”で活躍——泊
り込みの研修会では本音をぶつけ合えますね, 7, 825.
<奥瀬キヌ>障害者の民間ホームを運営——この人たちか
ら教えられることの多い毎日です, 8, 945.
<清水丸子>アルジェリアで日本人を看護する——みんな
医務室によく来るのは、甘えたいんですね, 9, 1065.
<芝和美>ネパールの村で開眼手術の介助を体験——跳び
上がって喜ぶ人はいなかったが、やはりうれしかった,
10, 1185.
<小坂和雄>保安処分反対運動に積極的に取り組む——今
の職場でも実質的保安処分が行われているんです, 11,
1305.
<古米照恵>夏山の診療所で看護活動を3年——山で病氣
になると平地とは違った不安に襲われるんです, 12,
1433.

素顔のナース

冬山では大自然と向き合える<板垣菊子さん>, 1, 1.
和紙には不思議な魅力がありますね<丸銭千栄子さん>,
2, 121.
「静」の秘める「強さ」にひかれます<室谷直子さん>, 3, 241.
音色を削り上げるおもしろさ<竹本千佳子さん>, 4, 361.
キャンパスには心が伝わります<渡部利枝さん>, 5, 481.

琴を弾くと身も心も引き締まる<江元智子さん>, 6, 601.
呼吸を合わせて創っていく楽しさ<鈴木弥生さん>, 7, 721.
まろやかな音色にひかれまます<山下敦子さん>, 8, 841.
水中で手足を伸ばし解放感を満喫<杠幸代さん>, 9, 961.
ギターには自分が出せるんです<広沢美和子さん>, 10, 1081.
三味線のかまえが好きです<正一靖子さん>, 11, 1201.
土の顔を見るときとても落ち着けまます<渡辺富子さん>, 12, 1321.

グラフ

「日本人の看護婦さんがほしい」——在アルゼンチン日系人のためのニッカイ診療所の活動：岩下守, 1, 12.
住民本位の地域医療を目指す開業医院——塩田医院における意欲的な取り組み, 2, 132.
在宅ケアへの展望を拓く——東京都立神経病院の「在宅診療」活動, 3, 252.
子を生み育てる だれでもやっていることです——両下肢麻痺の母と子の生活, 4, 372.
来られないのなら出かけて行こう——豪雪の福井で訪問看護を続ける光陽診療所, 5, 492.
中途失明者のリハビリテーションをめざして——神奈川県総合リハビリテーションセンター・七沢ライトホーム, 6, 612.
学生の誠意が伝わる——臨床実習に訪問看護を取り入れた県立愛知看護専門学校, 7, 732.
人間の「送り火」をともし運動として——<京都・呆け老人をかかえる家族の会>の活動から, 8, 852.
自立への確かな歩み——<奥瀬ホーム>で生活する友治君とその仲間, 9, 972.
過疎の地に息づく「草の根」の訪問看護——国立療養所志布志病院を訪ねて, 10, 1092.
グラフレポート／過疎の町で老人の訪問看護をつづけて：山下寿枝, 10, 1142.
石仏の里に息づく訪問看護——大分県真玉町役場の保健婦活動をみて, 11, 1212.
すべての人のためのヘルスケア——看護へのチャレンジ——第17回国際看護婦協会4年毎大会レポート：季羽倭文子, 12, 1328.
病気を慢性化させない精神医療を——開院1周年を迎えた湖南病院, 12, 1340.

看護サロン

准看制度・教育をめぐる読者からの意見について：編集部, 1, 117.
志はひとつ：赤星裕子, 1, 117.
苦しくとも甘えず：近藤キヨ子, 1, 118.

“地域看護の展望”を読んで：経隆洋子, 1, 119.
あるオリエンテーション——精神科病院臨床実習生に：澤潤一, 2, 237.
看護ケアを行う前に：河野美穂子, 2, 238.
父の看病で思ったこと：青木美智代, 2, 239.
看護するなかの幸せ, 人とのふれあい：小貫栄子, 3, 357.
言葉は看護の心：山田ヒロ子, 3, 358.
母の死に思う：伊藤民子, 3, 359.
准看にとって心強い「提言」：河上道代, 4, 477.
「提言」には疑問を感じる：匿名, 4, 478.
素晴らしきわが同僚：大城正子, 4, 479.
初めて分娩を見学して：金田光代, 5, 597.
募集広告の年齢制限に一言：匿名, 5, 598.
精神科における安全な「抑制」とは：三枝広雄, 5, 599.
へき地での公衆衛生活動に思う：河野美穂子, 6, 717.
企業内の保健室に勤務して：T.S., 6, 718.
ガンの宣告に思う：にしむらももこ, 6, 718.
「准看生徒の実習受け入れ拒否」に思う：杉山佐津子, 6, 719.
内科実習で受け持った患者さんの死に思う：仙田美和, 7, 837.
大学卒業後、看護学校に学んで：片山かほる, 7, 838.
末期がん患者の死に思う：赤坂英子, 7, 838.
看護する日々の振り返り：下田ナミ子, 7, 839.
手術室勤務の4年間で学び得たこと：佐藤清江, 8, 957.
ことばの力：西村知子, 8, 958.
「4.25 刑法改悪を許すな全国集会」に参加して：磯村正夫, 8, 958.
白衣姿で8年：笹井和子, 8, 959.
障害児施設での看護を振り返って：深海由子, 9, 1077.
カンボジア難民医療協力隊に参加して：児玉桃重, 9, 1078.
産婆として生きぬいた祖母の死に思う：山田ヒロ子, 10, 1197.
「国際障害者年」に思う：渡山恵子, 10, 1198.
ナース5年目, 25歳の私：にしむらももこ, 10, 1199.
ちょっとした不注意と言葉のズレが……：下田ナミ子, 11, 1317.
退職し、専業主婦となって：妄アカネ, 11, 1318.
家族の立場になってみて感じたこと：清藤名津雄, 11, 1319.
医療のころ——病者に対する心構えの再検討：西川喜作, 12, 1445.

アイデア

患者挙上帯の工夫——手術台上でX線カセットを出し入れするための用具：岡村美智子, 3, 309.
T字帯の改良：薄井千恵子, 10, 1151.